

〔曲名〕 Reverence

尊敬

〔曲種〕 Gavotta

〔作曲者〕 G.Manente

ジュゼッペ・マネンテ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作者については度々書いているのでそれを参照されたい。

本曲の作曲年代は詳かでないが作品番号から見て「国境なし」の前後と推定される。

屢々（しばしば）書いたようにマネンテはこのガボット調に佳曲が多く筆者も好むところとなった。

曲名Reverenceであるが、この曲名は多くの作家が物しており、カラーチェ等も同名のガボッタがある。思うに「恭（うやうや）しく敬意をこめて」の意ではないかと考えられる。

この曲を眺めていると私はルイ王朝華やかなりし頃のフランス宮廷の模様が髣髴（ほうふつ）させる。君臣階級の秩序が整然と保たれていた時代、芸術家は別格のものであったとしてもその社会的地位は高いものであったとは云えない。

本作者もウンベルト一世からエマヌエル三世時代の人であり、

高貴の人に目見えることを光栄としたことは多くの献曲によっても窺（うかが）われるのである。

従来のマンドリン合奏曲は多くの場合ギターパートはコードとリズムを受け持つのが常套手段であるが、本曲では敢えて旋律を配した。

今日ではギターは歌う楽器であり、之を生かさぬ法はないと私は考えている。

1971年12月7日発行

イタリアマンドリン百曲選第14集より